

## シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	医療概論		
必修選択	必修	(学則表記)	医療概論		
開講				単位数	時間数
年次	3 年次	学科	鍼灸科 昼間部	1	16
使用教材	医療概論		出版社	医歯薬出版会社	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	現代の医学、医療の現状や問題点などについて幅広く学習し、医療人に必要な知識の習得や、倫理観の形成を目的とする。				
到達目標	現代の医学、医療の現状や問題点などについて幅広く学習し、医療人に必要な知識の習得や、倫理観の形成している。				
評価基準	テスト、レポート、授業態度などにより総合的に勘案した結果を基に判定する。				
認定条件	出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者 成績評価が 3 以上の者				
関連資格	はり師、きゅう師				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	加藤 竜司	実務経験	○		
実務内容	ワロン鍼灸治療院にて臨床に従事。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	医学史序説、医学史の意義と特質	医療概論、医学史の方法の可能性
2	西洋の医学と医療の歴史	古代の医学、中世の医学
3	西洋の医学と医療の歴史	ルネサンスの医学、17 世紀の医学-近代医学の萌芽
4	西洋の医学と医療の歴史	18 世紀の医学、19 世紀以降の医学
5	東洋の医学と医療の歴史	古代インドの医学
6	東洋の医学と医療の歴史	中国の医学

7	日本の医学と医療の歴史	古代以前、古代の医学
8	日本の医学と医療の歴史	中世の医学、近世の医学
9	日本の医学と医療の歴史	近代の医学
10	現代医療の課題	西欧近代医学
11	現代医療の課題	東洋医学
12	現代の医療制度	医療従事者と医療施設、医療と医療経済
13	現代の医療制度	医療保険のしくみ
14	現代の医療制度	公的医療負担、介護サービス行政
15	医療倫理	医療倫理、施術者としての倫理
16	試験後まとめ	前期末試験解説

## シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	社会保障制度及び職業倫理		
必修選択	必修	(学則表記)	社会保障制度及び職業倫理		
開講				単位数	時間数
年次	3年次	学科	鍼灸科 昼間部	1	16
使用教材	社会あはき学 第2版		出版社	医道の日本社	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	現行の社会保障制度の概要を理解する。はり師、きゅう師としての倫理を身に付ける。				
到達目標	現行の社会保障制度の概要を説明できる。はり師、きゅう師としての必要な倫理を説明できる。				
評価基準	テスト、レポート、授業態度などにより総合的に勘案した結果を基に判定する。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が3以上の者				
関連資格	はり師、きゅう師				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	加藤 竜司	実務経験	○		
実務内容	ワロン鍼灸治療院にて臨床に従事。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	社会保障制度について	各種社会保険制度（医療保険、介護保険など）の概略
2	社会保障制度について	各種社会保険制度（医療保険、介護保険など）の概略
3	社会保障制度について	各種社会保険制度（医療保険、介護保険など）の概略
4	社会保障制度について	各種社会保険制度（医療保険、介護保険など）の概略
5	社会保障制度について	療養費払い制度の概略
6	社会保障制度について	療養費払い制度の概略

7	社会保障制度について	療養費払い制度の概略
8	社会保障制度について	療養費払い制度の概略
9	職業倫理について	医療従事者の倫理について
10	職業倫理について	医療従事者の倫理について
11	職業倫理について	医療従事者の倫理について
12	職業倫理について	医療従事者の倫理について
13	職業倫理について	医療従事者の倫理について
14	職業倫理について	医療従事者の倫理について
15	期末試験前の統括	授業のまとめ
16	期末試験の解答と解説	振り返り

## シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	東洋医学臨床論 II		
必修選択	必修	(学則表記)	東洋医学臨床論 II		
開講				単位数	時間数
年次	3 年次	学科	鍼灸科 昼間部	2	32
使用教材	東洋医学臨床論〈はりきゅう編〉		出版社	医道の日本社	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	患者の愁訴に応じた鑑別法や治療法を修得する。				
到達目標	疾患に対し、西洋医学的に適応・不適応を判断できるようになる。 疾患に対し、現代的、中医学的に施術の選択ができるようになる。				
評価基準	テスト、レポート、授業態度などにより総合的に勘案した結果を基に判定する。				
認定条件	出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者 成績評価が 3 以上の者				
関連資格	はり師、きゅう師				
関連科目	東洋医学臨床論 I				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	麻生 寿樹	実務経験	○		
実務内容	鍼灸整骨院、学校附属鍼灸院にて臨床に従事。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	2 年次の復習	頭痛・顔面痛・顔面麻痺・歯痛・眼精疲労・鼻閉、鼻汁の復習
2	2 年次の復習	頭痛・顔面痛・顔面麻痺・歯痛・眼精疲労・鼻閉、鼻汁の復習
3	2 年次の復習	頭痛・顔面痛・顔面麻痺・歯痛・眼精疲労・鼻閉、鼻汁の復習 脱毛症・めまい・耳鳴りと難聴・咳嗽・喘息・胸痛の復習
4	2 年次の復習	脱毛症・めまい・耳鳴りと難聴・咳嗽・喘息・胸痛の復習
5	2 年次の復習	脱毛症・めまい・耳鳴りと難聴・咳嗽・喘息・胸痛の復習
6	2 年次の復習	腹痛・悪心と嘔吐・便秘と下痢・月経異常・排尿異常・インポテンツの復習

7	2年次の復習	腹痛・悪心と嘔吐・便秘と下痢・月経異常・排尿異常・インポテンツの復習
8	2年次の復習	腹痛・悪心と嘔吐・便秘と下痢・月経異常・排尿異常・インポテンツの復習 肩こり・頸肩腕痛・肩関節痛・上肢痛・腰下肢痛・膝痛の復習
9	2年次の復習	肩こり・頸肩腕痛・肩関節痛・上肢痛・腰下肢痛・膝痛の復習
10	2年次の復習	肩こり・頸肩腕痛・肩関節痛・上肢痛・腰下肢痛・膝痛の復習
11	2年次の復習	運動麻痺・高血圧症・低血圧症・食欲不振・肥満・発熱の復習
12	2年次の復習	運動麻痺・高血圧症・低血圧症・食欲不振・肥満・発熱の復習 のぼせと冷え・不眠・疲労と倦怠・発疹・小児の疾患の復習
13	2年次の復習	のぼせと冷え・不眠・疲労と倦怠・発疹・小児の疾患の復習
14	2年次の復習	スポーツ外傷・障害、老年・高齢者の復習
15	2年次の復習	スポーツ外傷・障害、老年・高齢者の復習
16	前期末前まとめ、前期末試験のフィードバック	前期末試験の解説

## シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	社会はりきゅう学Ⅱ		
必修選択	必修	(学則表記)	社会はりきゅう学Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	3年次	学科	鍼灸科 昼間部	1	16
使用教材	社会あはき学 第2版		出版社	医道の日本社	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	現代社会における鍼灸師の役割を理解し、社会のニーズに合った鍼灸治療を提供できるようになる。 施術所開設に必要な知識や、施術所の経営に関する知識を習得する。				
到達目標	小児・女性・高齢者に対する疾病に対応できる。 施術を受ける側から身近な存在になれる。 地域の医療、福祉と連携がとれる。				
評価基準	テスト、レポート、授業態度などにより総合的に勘案した結果を基に判定する。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が3以上の者				
関連資格	はり師、きゅう師				
関連科目	社会はりきゅう学Ⅰ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	村田 清貴	実務経験	○		
実務内容	千歳むらた鍼灸院にて臨床に従事。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	現代社会における鍼灸師の役割	高齢社会における鍼灸師の役割
2	現代社会における鍼灸師の役割	高齢社会における鍼灸師の役割
3	現代社会における鍼灸師の役割	少子化社会における鍼灸師の役割
4	現代社会における鍼灸師の役割	少子化社会における鍼灸師の役割
5	現代社会における鍼灸師の役割	女性の健康管理における鍼灸師の役割

6	現代社会における鍼灸師の役割	女性の健康管理における鍼灸師の役割
7	現代社会における鍼灸師の役割	ストレス社会における鍼灸師の役割
8	現代社会における鍼灸師の役割	ストレス社会における鍼灸師の役割
9	現代社会における鍼灸師の役割	スポーツ障害に対する鍼灸師に役割
10	現代社会における鍼灸師の役割	スポーツ障害に対する鍼灸師に役割
11	現代社会における鍼灸師の役割	Q O L の向上と鍼灸師の役割
12	現代社会における鍼灸師の役割	Q O L の向上と鍼灸師の役割
13	施術所の経営展開	施術所開設に必要な法律知識
14	施術所の経営展開	経営各論
15	期末試験前の統括	授業のまとめ
16	期末試験の解答と解説	期末試験の解説



## シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	病態生理学		
必修選択	必修	(学則表記)	病態生理学		
開講				単位数	時間数
年次	3 年次	学科	鍼灸科 昼間部	2	32
使用教材	教員作成プリント		出版社		

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	疾病の成り立ちを理解し、臨床現場で求められる鑑別に関する知識を学ぶ。				
到達目標	疾病の成り立ちを説明できる。 疾患の鑑別できる。				
評価基準	テスト、レポート、授業態度などにより総合的に勘案した結果を基に判定する。				
認定条件	出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者 成績評価が 3 以上の者				
関連資格	はり師、きゅう師				
関連科目	臨床医学総論、臨床医学各論、病理学概論、解剖学、生理学				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	岩井 李恩	実務経験	○		
実務内容	学校付属鍼灸院にて臨床に従事。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	病態生理学を学ぶための基礎	筋骨格系の働き
2	病態生理学を学ぶための基礎	筋骨格系のしくみと破綻
3	病態生理学を学ぶための基礎	神経系の働き
4	病態生理学を学ぶための基礎	神経系のしくみと破綻
5	病態生理学を学ぶための基礎	内臓の働き
6	病態生理学を学ぶための基礎	内臓のしくみと破綻

7	体液調節のしくみとその異常	体液・電解質の正常性を保つしくみと破綻
8	血液の働きとその異常	血液の正常性を保つしくみと破綻
9	循環のしくみとその異常	循環器の正常性を保つしくみと破綻
10	呼吸のしくみとその異常	呼吸器の正常性を保つしくみと破綻
11	消化・吸収のしくみとその異常	消化管の機能の正常性を保つしくみと破綻、
12	腎・泌尿器のはたらきとその異常	腎・泌尿器の機能の正常性を保つしくみと破綻
13	内分泌・代謝のしくみとその異常	内分泌・代謝の機能の正常性を保つしくみと破綻
14	生殖のしくみとその異常	生殖の正常性を確保するしくみと破綻
15	脳、神経、筋の働きとその異常	脳・神経機能の正常を保つしくみと破綻
16	期末試験の解答と解説	期末試験の解説

## シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	総合領域 I		
必修選択	必修	(学則表記)	総合領域 I		
開講				単位数	時間数
年次	3年次	学科	鍼灸科 昼間部	4	64
使用教材	東洋医学概論・経絡経穴概論		出版社	医道の日本社	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	東洋医学概論や経絡経穴概論などの知識を再確認し、臨床で役立てられるレベルに引き上げる。				
到達目標	施術に必要な経穴を配穴できるようになる。 臓腑弁証を説明できるようになる。 四診法を説明できるようになる。				
評価基準	テスト、レポート、授業態度などにより総合的に勘案した結果を基に判定する。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が3以上の者				
関連資格	はり師・きゅう師				
関連科目	東洋医学概論・経絡経穴概論				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	澤田 侑里	実務経験	○		
実務内容	往診専門の治療院、学校附属鍼灸院にて臨床に従事。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	正経十二経脈の復習	手の太陰肺経、手の陽明大腸経
2	正経十二経脈の復習	足の陽明胃経、足の太陰脾経
3	正経十二経脈の復習	手の少陰心経、手の太陽小腸経
4	正経十二経脈の復習	足の太陽膀胱経、足の少陰腎経
5	正経十二経脈の復習	手の厥陰心包経、手の少陽三焦経

6	正経十二経脈の復習	足の少陽胆経、足の厥陰肝経
7	奇経八脈の復習	八脈交会穴、任脈、督脈、衝脈、帶脈、陰蹻脈、陽蹻脈、陰維脈、陽維脈
8	奇穴の復習	上肢、下肢の奇穴、体幹の奇穴
9	陰陽五行の復習	陰陽学説の基本と運用
10	陰陽五行の復習	五行学説の基本と運用
11	蔵象の復習	五臓
12	蔵象の復習	五臓、六腑
13	蔵象の復習	六腑、奇恒の腑
14	四診法の復習	望診
15	四診法の復習	聞診、問診
16	四診法の復習	切診
17	弁証論治の復習	弁証方法の確認
18	弁証論治の復習	八綱弁証
19	弁証論治の復習	八綱弁証
20	弁証論治の復習	気血津液弁証
21	弁証論治の復習	気血津液弁証
22	弁証論治の復習	気血津液弁証
23	弁証論治の復習	経絡弁証
24	弁証論治の復習	経絡弁証

25	弁証論治の復習	六経弁証
26	弁証論治の復習	衛気営血弁証
27	弁証論治の復習	治法
28	弁証論治の復習	治法
29	弁証論治の復習	弁証トレーニング
30	弁証論治の復習	弁証トレーニング
31	弁証論治の復習	弁証トレーニング
32	弁証論治の復習	弁証トレーニング

## シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	総合領域Ⅱ		
必修選択	必修	(学則表記)	総合領域Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	3年次	学科	鍼灸科 昼間部	4	64
使用教材	教員作成プリント		出版社		

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	あん摩マツサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律を学び、はり師、きゆう師の免許や業務に関する知識を習得する。また、他の医療従事者との連携を想定し、医療や福祉の関係法規も併せて学習する。				
到達目標	正常な人体の構造と生理機能を関連づけて説明できる。 東洋医学の基礎的な内容を説明できる。				
評価基準	テスト、レポート、授業態度などにより総合的に勘案した結果を基に判定する。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が3以上の者				
関連資格	はり師・きゆう師				
関連科目	医療概論・関係法規・衛生学・公衆衛生学				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	古川 茂	実務経験	○		
実務内容	学校付属鍼灸院にて臨床に従事。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	東洋医学基礎の復習	気血津液、邪気など東洋医学における弁証の基礎を復習する。
2	東洋医学基礎の復習	気血津液、邪気など東洋医学における弁証の基礎を復習する。
3	東洋医学基礎の復習	気血津液、邪気など東洋医学における弁証の基礎を復習する。
4	気血津液弁証の復習	気虚、血虚、陽虚、陰虚などの復習
5	気血津液弁証の復習	気虚、血虚、陽虚、陰虚などの復習
6	八綱弁証の復習	八綱弁証の復習と弁証トレーニング

7	八綱弁証の復習	八綱弁証の復習と弁証トレーニング
8	臓腑の生理作用の復習	五臓と六腑の生理作用の復習
9	臓腑の生理作用の復習	五臓と六腑の生理作用の復習
10	臓腑の生理作用の復習	五臓と六腑の生理作用の復習
11	臓腑弁証の復習	臓腑弁証と弁証トレーニング、治則について学ぶ
12	臓腑弁証の復習	臓腑弁証と弁証トレーニング、治則について学ぶ
13	循環の復習	心臓血管系・心臓の構造と働き
14	呼吸の復習	呼吸の仕組みと調節
15	消化と吸収の復習	各栄養素の消化と吸収
16	代謝の復習	各栄養素の働きと代謝
17	体温の復習	体温調節、体熱の産生と放散
18	排泄の復習	尿の生成と排泄
19	内分泌系の復習	ホルモンの種類とその働き
20	生殖・成長と老化の復習	生殖、妊娠と出産
21	神経の復習	ニューロンの構造と働き、神経線維の興奮伝導
22	神経の復習	神経系の分類と機能
23	筋肉の復習	骨格筋の構造と働き、筋の収縮の仕組み
24	感覚の復習	痛覚、嗅覚、味覚、聴覚、平衡感覚、視覚
25	鍼の基礎知識の復習	鍼と鍼管、古代九鍼

26	灸の基礎知識の復習	灸の材料、線香
27	特殊鍼法の復習	小児鍼、皮内鍼、円皮鍼 灸頭鍼、低周波鍼通電療法
28	リスク管理の復習	感染症対策、痛み感覚の受容と伝導
29	鍼灸治効の基礎の復習	筋の伸張刺激および筋の振動の受容と伝達、鍼灸刺激と反射
30	鍼灸治効の基礎の復習	鍼鎮痛、刺激と反応
31	期末試験前の統括	試験対策
32	期末試験の解答と解説	テストの振り返りと総まとめを行う



シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	総合領域Ⅲ		
必修選択	必修	(学則表記)	総合領域Ⅲ		
開講				単位数	時間数
年次	3 年次	学科	鍼灸科 昼間部	4	64
使用教材	教員作成プリント		出版社		

科目の基礎情報②

授業のねらい	疾病に対する理解を深め、臨床での鑑別能力を高める				
到達目標	疾病について説明できる。 疾病を鑑別できる。				
評価基準	テスト、レポート、授業態度などにより総合的に勘案した結果を基に判定する。				
認定条件	出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者 成績評価が 3 以上の者				
関連資格	はり師、きゅう師				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	加藤 竜司	実務経験	○		
実務内容	ワロン鍼灸治療院にて臨床に従事。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	腎・尿器疾患	原発性糸球体腎炎、腎不全
2	腎・尿器疾患	感染症
3	腎・尿器疾患	腫瘍性疾患、結石症、前立腺肥大
4	内分泌疾患	下垂体疾患、甲状腺疾患
5	内分泌疾患	甲状腺疾患、副腎疾患
6	神経疾患	脳血管疾患、感染性疾患

7	神経疾患	脳・脊髄腫瘍
8	神経疾患	基底核変性疾患、その他変性疾患、認知症性疾患
9	神経疾患	認知症性疾患
10	神経疾患	筋疾患
11	神経疾患	運動ニューロン疾患
12	神経疾患	末梢神経性疾患
13	神経疾患	神経痛
14	神経疾患	機能的疾患
15	生命徴候の診察	体温、脈拍
16	生命徴候の診察	血圧、呼吸
17	総括	前期振り返り
18	局所の診察	頭部
19	局所の診察	顔面
20	局所の診察	眼、鼻
21	局所の診察	耳、口腔
22	局所の診察	頸部
23	局所の診察	胸部、乳房
24	局所の診察	心臓
25	局所の診察	腹部

26	局所の診察	背部
27	局所の診察	四肢
28	神経系の診察	感覚検査法、反射検査
29	神経系の診察	脳神経系の検査、髄膜刺激症状検査
30	神経系の診察	その他の検査、運動麻痺
31	救急時の診察	救急時の診察
32	総括	授業まとめ

## シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	総合領域IV		
必修選択	必修	(学則表記)	総合領域IV		
開講				単位数	時間数
年次	3年次	学科	鍼灸科 昼間部	4	64
使用教材	教員作成プリント		出版社		

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	人体の構造と機能に関する知識の総復習を行う。				
到達目標	正常な人体の構造と生理機能を関連づけて説明できる。				
評価基準	テスト、レポート、授業態度などにより総合的に勘案した結果を基に判定する。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が3以上の者				
関連資格	はり師・きゅう師				
関連科目	解剖学・生理学				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	岩井 李恩	実務経験	○		
実務内容	学校付属鍼灸院にて臨床に従事。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	循環	血液の組成と働き
2	循環	止血、線維素溶解
3	循環	血液型
4	循環	心臓血管系
5	循環	心臓の構造と働き
6	循環	血液循環

7	呼吸	換気とガス交換
8	呼吸	呼吸運動とその調節
9	消化と吸収	消化器系の構造と機能
10	生体の防御機構	自然免疫と獲得免疫
11	生体の防御機構	免疫反応
12	排泄	腎臓の働き・腎循環・体液調整
13	排泄	畜尿・排尿
14	神経	中枢神経系の分類と機能
15	神経	大脳・視床下部・視床
16	神経	小脳・脳幹
17	神経	脊髄・反射
18	内分泌	ホルモンの特徴・種類
19	内分泌	ホルモンの働き
20	感覚	感覚の分類、体性感覚、内臓感覚
21	感覚	痛覚
22	感覚	視覚、聴覚
23	感覚	平衡感覚、味覚、嗅覚
24	運動	運動の調節
25	運動	錐体路系と錐体外路系

26	筋肉	骨格筋の構造と働き
27	筋肉	筋収縮の仕組み
28	筋肉	筋のエネルギー供給の仕組み
29	筋肉	心筋と平滑筋
30	体温	体温調節・体熱の産生と放散・発汗とその調節
31	テスト	テストを実施する
32	総まとめ	テストの振り返りと総まとめを行う

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	総合領域Ⅴ		
必修選択	必修	(学則表記)	総合領域Ⅴ		
開講			単位数	時間数	
年次	3年次	学科	鍼灸科 昼間部		4
使用教材	教員作成プリント		出版社		

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	東洋医学と西洋医学の知識を再確認し、臨床で役立てられるレベルに引き上げる。				
到達目標	正常な人体の構造と生理機能を関連づけて説明できる。 病態に応じたリハビリテーションについて説明できる。 東洋医学の応用的な内容を説明できる。				
評価基準	テスト、レポート、授業態度などにより総合的に勘案した結果を基に判定する。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が3以上の者				
関連資格	はり師、きゅう師				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	村田 清貴、西川 隆一	実務経験	○		
実務内容	千歳むらた鍼灸院にて臨床に従事。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	循環器系	血管系・心臓
2	呼吸器系	鼻腔・副鼻腔・咽頭・喉頭・気管・気管支・肺
3	消化器系	口腔と咽頭・食道・胃・大腸・小腸
4	消化器系	肝臓・胆嚢・腹膜
5	泌尿器系	腎臓・尿路
6	生殖器系	男性生殖器・女性生殖器・受精と発生
7	内分泌系	下垂体・甲状腺・上皮小体・副腎・膵臓・性腺
8	神経系	神経系の構成・中枢神経系・末梢神経系・自律神経系
9	各疾患のリハビリテーションの復習	医学的リハビリテーション

10	各疾患のリハビリテーションの復習	脳卒中のリハビリテーション①
11	各疾患のリハビリテーションの復習	脳卒中のリハビリテーション②
12	各疾患のリハビリテーションの復習	脊髄損傷のリハビリテーション①
13	各疾患のリハビリテーションの復習	脊髄損傷のリハビリテーション②
14	各疾患のリハビリテーションの復習	脊髄損傷のリハビリテーション③
15	各疾患のリハビリテーションの復習	切断のリハビリテーション
16	各疾患のリハビリテーションの復習	小児のリハビリテーション
17	各疾患のリハビリテーションの復習	骨関節疾患のリハビリテーション
18	各疾患のリハビリテーションの復習	呼吸器疾患のリハビリテーション
19	各疾患のリハビリテーションの復習	心疾患のリハビリテーション
20	各疾患のリハビリテーションの復習	高齢者のリハビリテーション
21	主要症候に対する鍼灸療法の復習	頭痛、顔面痛の復習
22	主要症候に対する鍼灸療法の復習	歯痛、眼精疲労の復習
23	主要症候に対する鍼灸療法の復習	眼精疲労、鼻閉・鼻汁の復習
24	主要症候に対する鍼灸療法の復習	耳鳴り、難聴、咳嗽の復習
25	主要症候に対する鍼灸療法の復習	咳嗽、喘息の復習
26	主要症候に対する鍼灸療法の復習	腹痛、悪心と嘔吐の復習
27	主要症候に対する鍼灸療法の復習	便秘と下痢、月経異常の復習
28	主要症候に対する鍼灸療法の復習	排尿障害の復習
29	主要症候に対する鍼灸療法の復習	頸肩腕痛、肩関節痛の復習
30	主要症候に対する鍼灸療法の復習	運動麻痺、高血圧症の復習
31	主要症候に対する鍼灸療法の復習	食欲不振、肥満の復習
32	総まとめ	テストの振り返りと総まとめを行う



# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	総合領域VI		
必修選択	必修	(学則表記)	総合領域VI		
開講			単位数	時間数	
年次	3年次	学科	鍼灸科 昼間部		3
使用教材	教員作成プリント		出版社		

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	疾病に対する理解を深め、疾病からの回復過程についての理解を深める				
到達目標	疾患の病理学的な変化について説明できる。 主要な疾患のリハビリテーションについて説明できる。				
評価基準	テスト、レポート、授業態度などにより総合的に勘案した結果を基に判定する。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が3以上の者				
関連資格	はり師、きゅう師				
関連科目	病理学概論・リハビリテーション医学				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	加藤 竜司、古川 茂		実務経験	○	
実務内容	ワロン鍼灸治療院にて臨床に従事。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	病因論	遺伝・免疫などの内因、感染症などの外因
2	循環障害	充血、うっ血、貧血・虚血、血栓症、塞栓症について
3	退行性病変	萎縮、変性、壊死について
4	進行性病変	肥大・増殖・再生について
5	炎症	炎症について
6	炎症	炎症の一般、分類について
7	腫瘍	腫瘍について
8	腫瘍	良性腫瘍、悪性腫瘍について
9	免疫異常・アレルギー	液性免疫と細胞性免疫について

10	先天性異常	先天性疾患について
11	第1章の復習・演習	生理学の基礎の復習
12	第2章の復習・演習	循環の復習
13	第3章の復習・演習	呼吸の復習
14	第4章の復習・演習	消化と吸収の復習
15	第5章の復習・演習	代謝の復習
16	第6章の復習・演習	体温の復習
17	第7章の復習・演習	排泄の復習
18	第8章の復習・演習	内分泌系の復習
19	第9章の復習・演習	生殖・成長と老化の復習
20	第10章の復習・演習	神経の復習
21	第11・12章の復習・演習	筋、運動の復習
22	第13章の復習・演習	感覚の復習
23	第14章の復習・演習	生体の防御機構の復習
24	第15章の復習・演習	身体活動の協調の復習
25	東洋医学基礎の復習	気血津液、邪気など東洋医学における弁証の基礎
26	気血津液弁証の復習	気虚、血虚、陽虚、陰虚などの復習
27	八綱弁証の復習	八綱弁証の復習
28	臓腑の生理作用の確認	五臓と六腑の生理作用の復習
29	臓腑の生理作用の確認	五臓と六腑の生理作用の復習
30	臓腑弁証の復習	臓腑弁証と弁証トレーニング、治則について学ぶ
31	臓腑弁証の復習	臓腑弁証と弁証トレーニング、治則について学ぶ
32	総まとめ	テストの振り返りと総まとめを行う

## シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	総合領域VII		
必修選択	必修	(学則表記)	総合領域VII		
開講				単位数	時間数
年次	3 年次	学科	鍼灸科 昼間部	2	32
使用教材	教員作成プリント		出版社		

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	人体の構造と機能に関する知識の総復習を行う。				
到達目標	患者の人権に根ざした医療を行うため、業務に必要な法律を理解し順守できるようになる。 インフォームドコンセントを実践できる。 医療従事者の業務を知り、医療チームの一員として活躍できる。				
評価基準	テスト、レポート、授業態度などにより総合的に勘案した結果を基に判定する。				
認定条件	出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者 成績評価が 3 以上の者				
関連資格	はり師・きゅう師				
関連科目	医療概論、衛生学・公衆衛生学、関係法規				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	麻生 寿樹	実務経験	○		
実務内容	鍼灸整骨院、学校附属鍼灸院にて臨床に従事。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	医療概論	現代の鍼灸医学、現代の医療制度
2	医療概論	現代の医療制度、医療倫理
3	医療概論	医療倫理、医療概論の統括
4	関係法規	試験・免許について
5	関係法規	業務・罰則について

6	関係法規	学校、要請施設、指定試験（登録）機関、医療法について
7	関係法規	医師法、その他の医療従事者に関する法律
8	関係法規	薬事法規・衛生関係法規社会、福祉関係法規、その他の関係法規
9	衛生学・公衆衛生学	ライフスタイルと健康、環境と健康、産業保険
10	衛生学・公衆衛生学	精神保健－精神の健康と精神障害
11	衛生学・公衆衛生学	精神保健－精神の健康と精神障害、母子保健
12	衛生学・公衆衛生学	母子保健、成人・高齢者保健
13	衛生学・公衆衛生学	成人・高齢者保険、感染症とその対策
14	衛生学・公衆衛生学	感染症とその対策
15	衛生学・公衆衛生学	疫学、保健統計
16	総まとめ	テストの振り返りと総まとめを行う

## シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	総合領域Ⅷ		
必修選択	必修	(学則表記)	総合領域Ⅷ		
開講				単位数	時間数
年次	3 年次	学科	鍼灸科 昼間部	2	32
使用教材	教員作成プリント		出版社		

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	疾病に対する理解を深め、臨床での鑑別能力を高める				
到達目標	疾病について説明できる。 疾病を鑑別できる。				
評価基準	テスト、レポート、授業態度などにより総合的に勘案した結果を基に判定する。				
認定条件	出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者 成績評価が 3 以上の者				
関連資格	はり師・きゅう師				
関連科目	臨床医学総論、臨床医学各論、病理学概論、解剖学、生理学				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	富永 敦	実務経験	○		
実務内容	明治国際医療大学大学院附属鍼灸センター、学校附属鍼灸院にて臨床に従事。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	感染性疾患	細菌感染・ウイルス感染について
2	感染性疾患	感染経路・性感染について
3	消化管疾患	口腔疾患・食道疾患について
4	消化管疾患	胃・十二指腸疾患、腸疾患について
5	肝臓疾患	肝臓疾患について
6	胆嚢・膵臓疾患	胆嚢疾患・膵臓疾患について

7	呼吸器疾患	感染性呼吸器疾患、閉塞性呼吸器疾患について
8	呼吸器疾患	拘束性呼吸器疾患、その他の呼吸器疾患について
9	代謝疾患	糖代謝・脂質代謝異常について
10	栄養疾患	その他の代謝異常について
11	整形外科疾患	関節疾患、筋・腱疾患について
12	整形外科疾患	外傷、その他の整形外科疾患について
13	循環器疾患	心疾患・血管疾患について
14	血液・造血器疾患	血球系の以上について
15	膠原病	リウマチ性疾患、膠原病について
16	総まとめ	テストの振り返りと総まとめを行う

## シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	はきの適応の判断		
必修選択	必修	(学則表記)	はきの適応の判断		
開講				単位数	時間数
年次	3 年次	学科	鍼灸科 昼間部	2	32
使用教材	教員作成プリント		出版社		

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	鍼灸の適応不適応について学び、臨床の現場で鑑別法を実施できるだけの知識と技術を養う。				
到達目標	鍼灸の適応不適応について説明できる。 臨床における鑑別ができる。				
評価基準	テスト、レポート、授業態度などにより総合的に勘案した結果を基に判定する。				
認定条件	出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者 成績評価が 3 以上の者				
関連資格	はり師、きゅう師				
関連科目	臨床医学総論、臨床医学各論、病理学概論、解剖学、生理学				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	富永 敦	実務経験	○		
実務内容	明治国際医療大学大学院附属鍼灸センター、学校附属鍼灸院にて臨床に従事。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	肩痛の鑑別	肩痛の鑑別に必要な問診、検査について学ぶ。
2	頸部痛の鑑別	頸部痛の鑑別に必要な問診、検査について学ぶ。
3	腰痛の鑑別	腰痛の鑑別に必要な問診、検査について学ぶ。
4	股関節痛の鑑別	股関節痛の鑑別に必要な問診、検査について学ぶ。
5	膝痛の鑑別	膝痛の鑑別に必要な問診、検査について学ぶ。
6	しびれの鑑別	しびれの鑑別に必要な問診、検査について学ぶ。

7	腹痛の鑑別	腹痛の鑑別に必要な問診、検査について学ぶ。
8	胸痛の鑑別	胸痛の鑑別に必要な問診、検査について学ぶ。
9	慢性痛と鍼灸	慢性痛治療における鍼灸治療の意義について学ぶ。
10	癌と鍼灸	癌治療における鍼灸治療の意義について学ぶ。
11	鍼灸治療と EBM	EBM と鍼灸治療の EBM について学ぶ。
12	臨床推論	鍼灸床で遭遇する疾患について臨床推論を行う。
13	臨床推論	鍼灸床で遭遇する疾患について臨床推論を行う。
14	臨床推論	鍼灸床で遭遇する疾患について臨床推論を行う。
15	臨床推論	鍼灸床で遭遇する疾患について臨床推論を行う。
16	総括	前期授業のまとめを行う。



## シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	臨床はりきゅう実技		
必修選択	必修	(学則表記)	臨床はりきゅう実技		
開講				単位数	時間数
年次	3年次	学科	鍼灸科 昼間部		160
使用教材	教員作成プリント		出版社		

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	疾患ごとの治療方針、治療方法を習得する。				
到達目標	各領域における鍼灸治療を学び、鑑別診断や治療を構築することができる。				
評価基準	テスト、レポート、授業態度などにより総合的に勘案した結果を基に判定する。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が3以上の者				
関連資格	はり師・きゅう師				
関連科目	基礎はりきゅう実技・応用はりきゅう実技				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	村田 清貴、西川 隆一	実務経験	○		
実務内容	千歳むらた鍼灸院にて臨床に従事。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	臨床実技の進め方、施術者に求められる「臨床能力」
2	医療面接総論	医療面接の基本、客観的臨床能力試験（OSCE）について
3	病歴聴取総論	聴取すべき項目、聴き方
4	主要症候に対する鍼灸治療	腰痛の医療面接と診察
5	主要症候に対する鍼灸治療	腰痛のロールプレイング実習
6	主要症候に対する鍼灸治療	下肢痛を伴う腰痛の医療面接と診察

7	主要症候に対する鍼灸治療	下肢を伴う腰痛のロールプレイング実習
8	主要症候に対する鍼灸治療	膝痛の医療面接と診察
9	主要症候に対する鍼灸治療	膝痛のロールプレイング実習
10	主要症候に対する鍼灸治療	頸腕症候群の医療面接と診察
11	主要症候に対する鍼灸治療	頸腕症候群のロールプレイング実習
12	主要症候に対する鍼灸治療	肩関節周囲炎の医療面接と診察
13	主要症候に対する鍼灸治療	肩関節周囲炎のロールプレイング実習
14	主要症候に対する鍼灸治療	上肢痛の医療面接と診察
15	主要症候に対する鍼灸治療	上肢痛のロールプレイング実習
16	主要症候に対する鍼灸治療	頭痛の医療面接と診察
17	主要症候に対する鍼灸治療	頭痛のロールプレイング実習
18	主要症候に対する鍼灸治療	眼精疲労の医療面接と診察
19	主要症候に対する鍼灸治療	眼精疲労のロールプレイング実習
20	主要症候に対する鍼灸治療	眩暈の医療面接と診察
21	主要症候に対する鍼灸治療	眩暈のロールプレイング実習
22	主要症候に対する鍼灸治療	耳鳴の医療面接と診察
23	主要症候に対する鍼灸治療	耳鳴のロールプレイング実習
24	主要症候に対する鍼灸治療	顔面痛の医療面接と診察
25	主要症候に対する鍼灸治療	顔面神経麻痺の医療面接と診察

26	主要症候に対する鍼灸治療	美容鍼の医療面接と診察
27	主要症候に対する鍼灸治療	スポーツ医学と鍼灸
28	主要症候に対する鍼灸治療	婦人科疾患の医療面接と診察
29	主要症候に対する鍼灸治療	老年医学と鍼灸
30	主要症候に対する鍼灸治療	小児疾患の鍼灸
31	期末試験前の統括	授業のまとめ
32	総まとめ	テストの振り返りと総まとめを行う

## シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	実習	科目名	臨床実習Ⅲ		
必修選択	必修	(学則表記)	臨床実習Ⅲ		
開講				単位数	時間数
年次	3 年次	学科	鍼灸科 昼間部		90
使用教材	教員作成プリント		出版社		

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	鍼灸治療に関する総合的なシミュレーションを行い、臨床能力を高める。				
到達目標	医療面接ができる。 徒手検査ができる。 病態把握ができる。 治療計画を考えられる。				
評価基準	テスト、レポート、授業態度などにより総合的に勘案した結果を基に判定する。				
認定条件	出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者 成績評価が 3 以上の者				
関連資格	はり師、きゅう師				
関連科目	臨床実習Ⅰ、臨床実習Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	富永 敦、加藤 竜司、澤田 侑里	実務経験	○		
実務内容	明治国際医療大学大学院附属鍼灸センター、学校附属鍼灸院にて臨床に従事。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	鍼灸治療のシミュレーション	学生同士ペアを組み、四診からカルテの作成、治療方針の決定、施術までを通して行い、施術終了後は学生同士で評価を行う。
2	鍼灸治療のシミュレーション	学生同士ペアを組み、四診からカルテの作成、治療方針の決定、施術までを通して行い、施術終了後は学生同士で評価を行う。
3	鍼灸治療のシミュレーション	学生同士ペアを組み、四診からカルテの作成、治療方針の決定、施術までを通して行い、施術終了後は学生同士で評価を行う。
4	鍼灸治療のシミュレーション	学生同士ペアを組み、四診からカルテの作成、治療方針の決定、施術までを通して行い、施術終了後は学生同士で評価を行う。
5	鍼灸治療のシミュレーション	学生同士ペアを組み、四診からカルテの作成、治療方針の決定、施術までを通して行い、施術終了後は学生同士で評価を行う。



25	鍼灸治療のシミュレーション	学生同士ペアを組み、四診からカルテの作成、治療方針の決定、施術までを通して行い、施術終了後は学生同士で評価を行う。
26	鍼灸治療のシミュレーション	学生同士ペアを組み、四診からカルテの作成、治療方針の決定、施術までを通して行い、施術終了後は学生同士で評価を行う。
27	鍼灸治療のシミュレーション	学生同士ペアを組み、四診からカルテの作成、治療方針の決定、施術までを通して行い、施術終了後は学生同士で評価を行う。
28	鍼灸治療のシミュレーション	学生同士ペアを組み、四診からカルテの作成、治療方針の決定、施術までを通して行い、施術終了後は学生同士で評価を行う。
29	鍼灸治療のシミュレーション	学生同士ペアを組み、四診からカルテの作成、治療方針の決定、施術までを通して行い、施術終了後は学生同士で評価を行う。
30	鍼灸治療のシミュレーション	学生同士ペアを組み、四診からカルテの作成、治療方針の決定、施術までを通して行い、施術終了後は学生同士で評価を行う。
31	鍼灸治療のシミュレーション	学生同士ペアを組み、四診からカルテの作成、治療方針の決定、施術までを通して行い、施術終了後は学生同士で評価を行う。
32	授業のまとめ	授業のまとめを行う。